

案件概要書

2022年12月20日

1. 基本情報

- (1) 国名：バングラデシュ人民共和国（以下、「バングラデシュ」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ダッカ市、チョットグラム市等
- (3) 案件名：食品安全検査能力向上計画（Food Safety Testing Capacity Development Project）
- (4) 計画の要約：本計画は、バングラデシュにおいて食品安全レファレンス検査棟、研修棟、事務所棟の新設、及び検査機材等を整備することにより、食品安全庁（Bangladesh Food Safety Authority。以下、「BFSA」という。）の食品安全検査能力向上を図り、食品安全に配慮された質の高い農産物や加工品へ生産、同国の食品加工業の振興、産業多角化、安全性の低い食品に起因する疾病の予防等に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

バングラデシュは、インドとASEANの交差点に位置することから地政学的重要性が高く、同国の安定的な発展は地域の安定と発展に重要である。同国は極めて親日的であり、我が国はバングラデシュの独立以来の友好国として関係を維持・強化してきた。

同国は堅調な経済成長を遂げており、進出する日本企業数も増加している（2014年5月時点：182社、2018年5月時点：269社、2021年5月時点：321社、2021年12月時点：324社）。その一方で、インフラの未整備や社会開発の遅れといった課題を抱えており、本件を通じてこの問題に対処し、同国の社会・経済の発展に貢献することは、バングラデシュの経済的発展のみならず、南西アジア地域全体の安定的な発展にも資するものとして重要。

また、本計画を通じてバングラデシュの食品安全検査能力の向上を支援することは、バングラデシュが抱える喫緊の課題への取組を後押し、良好な二国間関係を維持強化する観点からも意義がある。

さらに、近年、バングラデシュに進出する日本企業も増加していることから、「ベンガル湾産業成長地帯」（BIG-B）構想の柱の一つとして掲げる投資環境整備にも資することが期待される。

- (2) 当該国における食品産業セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

バングラデシュでは、所得増加に伴う外食産業の普及などの食生活の変化等により、肥満やがん・糖尿病等の生活習慣病を患う人口が増え、国民の間で健康志向が高まっている。また、国内の流通網が発展途上の同国では、遠路からの生鮮食材の輸送・保存のためのサプライチェーンに課題も多く、市場に出回る食の安全性への関心が急速に高まっている。具体的には、農作物への農薬、化学肥料の過剰使用、飼料や水に含まれる化学残留物による農畜水産物への汚染、食品加工段階での過剰な保存料・着色料の使用等による食品安全性への懸念がある。同国では、汚染された食品の摂取を原因とする、下痢性疾患やA・E型肝炎等によ

る健康被害への影響が指摘されている（JICA、2019）。同国は、「国家農業政策 2012」において農産物の安全性確保の必要性を示し、2013年に食品安全法を制定の上、2015年にBFSAを設立した。しかし、現状国内に十分な科学的根拠に基づき食品安全検査を行うことができる公的な検査施設がなく、食品検査は民間業者への委託等を通じて行われているが、検査の信頼性への懸念が指摘されている。また、2026年の後発開発途上国卒業後は特惠関税適用等の恩恵が受けられなくなることから、輸出品の国際競争力強化が求められている。「第8次五ヶ年計画」（2020/21-2024/25）においては、食品安全検査を実施する上での機材や技術能力の不足等に加え、食品安全行政を司るBFSAに対する同国初となる公的な食品安全検査棟導入の必要性が喫緊の課題として指摘されている。本計画は、食品安全レファレンス検査棟、研修棟、事務所棟の新設、及び検査機材整備を通じたBFSAの食品安全検査能力向上により、食品安全に配慮された質の高い農産物や加工品が生産及び輸出入されると共に、食品加工業の振興、産業多角化への貢献、また、安全性の低い食品に起因する疾病の予防等に繋がることを期待できる等、同国の開発政策における優先度の高い事業として位置づけられる。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容

- ア) 食品安全レファレンス検査棟、研修棟、事務所棟等の新設
- イ) 検査機材の整備（残農薬分析機器、重金属分析器、微生物分析器等、詳細は協力準備調査において確認する）
- ウ) コンサルティング・サービス（組織体制及び検査能力強化、詳細設計、入札補助、施工管理等）

② 期待される開発効果：BFSAによるモニタリング検査の精度が高まるとともに検査件数が増えることにより（残農薬成分検査（105件/年→200件/年）、微生物検査（240件/年→1000件/年）等）、食品の安全性が客観的に確認されることで、同国の食品加工業の振興、産業多角化、食品及び食品加工品に対する信頼性向上、同国国民の食品安全管理を通じた疾病の予防及び健康状況の改善への貢献が期待される。

③ 借入人：バングラデシュ人民共和国政府（The Government of the People's Republic of Bangladesh）

④ 計画実施機関／実施体制：食品安全庁（BFSA）

⑤ 他機関との連携・役割分担：国際食糧農業機関（FAO）、米国国際開発庁（USAID）及び米国農務省（USDA）が食品安全制度面を支援。また、国際農業開発基金（IFAD）が小規模農家・畜産農家へのビジネス支援と食品安全を結び付ける資金協力を実施中であり、本計画を通じたBFSAの食品安全検査能力強化との相乗効果により、同国の食品安全性の更なる向上が見込まれる。

⑥ 運営／維持管理体制：本計画で整備される施設と機材の維持管理はBFSAが行う。

#### (2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C

- ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

#### 4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

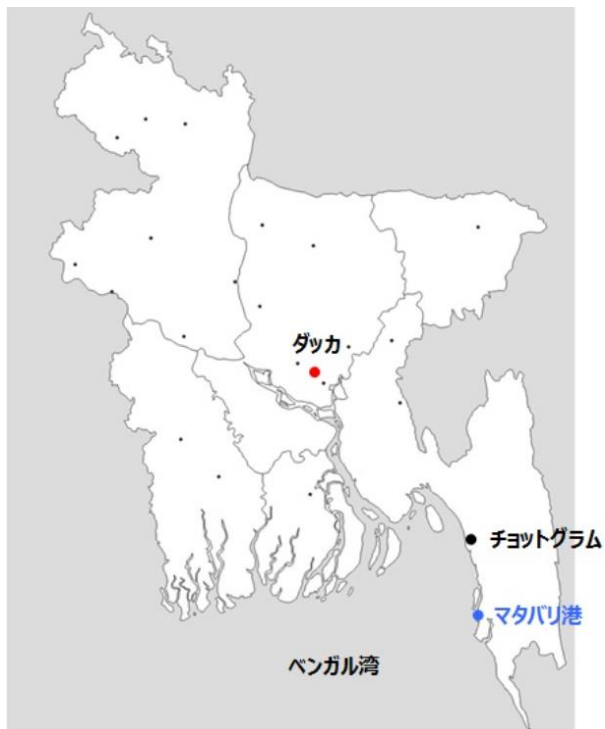
- チリ共和国向け技術協力「食品安全国家プログラム強化プロジェクト」（評価年度：2011年）の事後評価等においては、検査室の検査・分析能力の発展のために、適切な検査室施設、機材、技術者の確保及び技術者に対する継続的な研修プログラムの実施が望ましいとの教訓が得られている。本計画では、適切な検査室と検査機材の導入及び、技術者に対する研修計画や施設・機材の維持管理計画の策定と実施について協力準備調査にて十分に検討し、必要に応じて、有償勘定技術支援等を通じて組織体制及び検査能力強化を図る等必要な対応策を検討する。

以 上

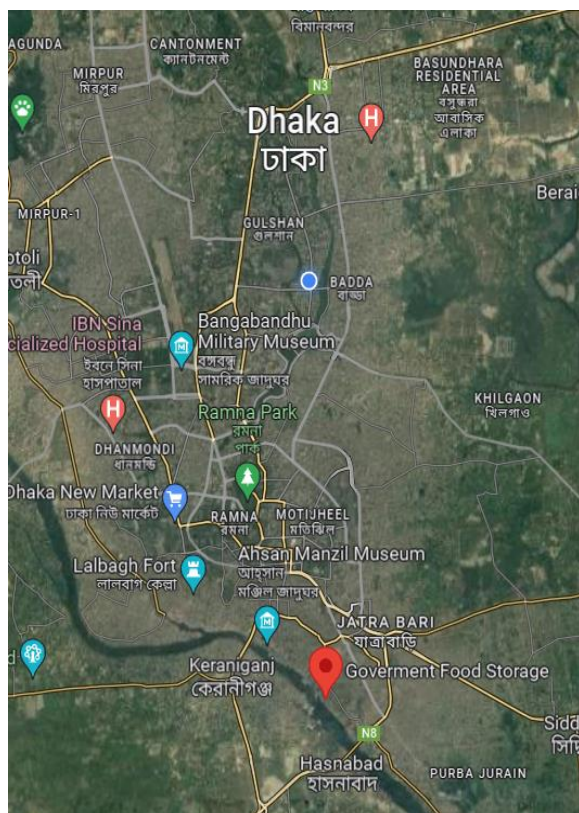
[別添資料] 地図

[別添資料] 写真

地図「食品安全検査能力向上計画」



(出典 : JETRO)



(出典 : Google Map)

写真「食品安全検査能力向上計画」



汚染された川で野菜を洗っている写真  
(出典：現地調査により取得)